

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472800909				
法人名	中央ケアサービス株式会社				
事業所名	なでしこ大紀				
所在地	三重県度会郡大紀町崎181-4				
自己評価作成日	令和 4年 2月 1日	評価結果市町提出日			

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=2472800909-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 4 年 3 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ以降、安全性と家族の絆を天秤にかけるとなると、難しい判断をする場面が増えました。感染防止を言うなら普段の身体拘束や虐待の解釈に疑問や矛盾も感じるところです。訪問面会の際にはほとんどのご家族が配慮をしてくださり、ありがたくて涙が出る思いです。亡くなられる直前でも面会を遠慮された大阪在住のご家族もおられました。このまま施設で感染症を出さないことで、そのご家族の思いにお応えしたいと考えています。コロナ禍の中、職員は様々に工夫を重ねて入居者を楽しませようとしています。レクで大いに盛り上がっている入居者の様子をぜひ見ていただければと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三重県の中南部に位置する、自然環境に恵まれた大紀町に平成18年に開設された、デイサービスが併設されているグループホームである。管理者・職員は、理念「笑顔と優しい声の響き」を大切に、家庭的な雰囲気づくりに努めている。利用者との距離が近くなり過ぎ、なれ合いにならないよう職員同士で注意し合い、利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや支援に取り組んでいる。夕食後、利用者同士が誘い合って、トランプをして過ごしている。職員は常に利用者同士の関係を把握し、利用者同士が関わり合い支え合えるような関係づくりを支援している。利用者が安心して笑顔で過ごせる支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示し、朝礼で唱和。会長もあいさつで理念に沿う行動を、と繰り返している。サービス提供の原点として大切にしている。以前の外部評価で、「上から目線だ」と批判されたことを未だに根に持っている。	共有スペースに理念を掲示し、朝礼で唱和している。また、訓話などで共有し実践につなげている。管理者・職員は開設当初からの事業所理念をサービス提供の原点として大切に、日々、理念にそった言動・支援が実践されているか再確認を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域イベントへの参加や地域の子供らとの交流は感染症予防の観点から中断。買い物同行も同様に見合わせている。移動販売店は、計4店が来訪。	地域の各種団体や地元出身の職員から情報を収集し、地域の行事に参加したり、保育園との交流、中学生の職場体験、ボランティア受け入れなど、積極的に地域住民との交流が行われていたが、コロナウイルス感染症防止のため中止になっている。そんな中、散歩時の会話や移動販売店の買物が交流の場になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サロンの開催や、職場体験の受入れ、近隣住民団体に協力を得た夏祭りの開催、地域の中学校での臨時講師、紙芝居での認知症の周知活動などを行っていたが、すべて感染症予防のため中断している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で開催し、困っていることは積極的に助言をいただいている。コロナ以降、書面での開催に変更。活動報告、現状報告を送付し、ご意見をいただいている。	役場職員・町会議員・民生委員・元消防署員・ボランティア・大台町ケアマネ・家族代表等が出席して定期的に開催されている。現在、コロナウイルス感染症防止対策に伴い、書面会議を実施している。各構成員に書面にて議事内容を報告し、いただいた感想や意見を職員間で共有しサービスの向上に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に参加いただき、現状報告し、意見を伺っている。コロナ以降、書面にてご意見を伺っている。	運営推進会議(書面会議)の報告書を送付し、書面で意見や情報をいただいている。書類提出や報告・相談などで町役場を訪問したり、コロナウイルス感染予防のため電話やFAXで情報交換を行っている。日頃から連絡を密にとり協力関係が築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議の場で定期的に学習している。現状、危険度が高いデイ利用者が1名、入居者が2名おり、それぞれ抜け出す。線路に入り、地域住民に助けていただいたこともある。理不尽に悩む日々。	全体会議において定期的に、指針に基づいた身体拘束の廃止・適正化のための委員会を開催している。またマニュアルを活用し研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。危険性の高い利用者のケアについて、職員間で話し合い事故防止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議の場で定期的に学習している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習に参加し、会議の場で周知している。利用者やご家族とは、利用開始前に時間をかけて確認しあっている。成年後見人制度について、ご家族からの相談に対応したことも。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明のため、十分な時間を取っている。説明不足によるトラブルやクレームは、今のところ経験がない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議での相談、面会時の近況の報告と要望の確認、毎月のお手紙への写真掲載、ご意見募集用の返信ハガキの封入、苦情窓口係の設置など。現家族代表は次回運営会議に出席予定。	コロナ感染症対策のため面会は自粛していただいているが、家族の要望に応じて玄関先での面会を実施している。現在、電話や広報誌「なでしこ大紀」で利用者や事業所の様子を伝え、家族の意見や要望を聞くよう努めている。また、苦情窓口を設置し、サービスの苦情や相談を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、職員会議、連絡ノート、要望票、年一回の感想文、自己評価への全員参加などの機会を設けているが、個人的な相談の形で上がってくることがほとんど。	毎月の職員会議や連絡ノート・提案メモなどで意見や提案を出し合い、運営に反映させている。施設長・管理者は、職員の個人的な相談に応じるなど何でも話し合える、風通しの良い職場づくりに努めている。また、会長と直接話す機会も設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤日や就業時間帯の要望には最大限に対応。個人的な事柄や人間関係の相談も個別に時間を取って対応、配慮を実施。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	セミナーや研修会の周知と参加を呼び掛けている。会議では内容報告や看護師によるミニ勉強会を実施。介護技術向上のためyoutubeチャンネル視聴と意見交換会なども実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	役職者が県グループホーム協議会に役員として参加。研修日程を会議で周知、報告と取り入れの検討を実施。施設研修の講師依頼も。地域の同業者主催研修にも積極的に協力、参加している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と家族による見学を積極的にお勧めしている。予約・契約それぞれで相談と説明のための話し合いに十分な時間を取っている。笑顔と声の響きを大切に、家庭的な雰囲気づくりに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族による見学を積極的にお勧めしている。予約・契約それぞれで相談と説明のための話し合いに十分な時間を取っている。初期の家族の協力が重要とお願いし、手助けしていただけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、CM、担当を含めて本人中心のグループで話し合い、偏らない判断ができてい る。誤解のない話し合いができてい るが、要望はリハビリに関連したもの が多く、できる範囲で実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員それぞれが笑顔と声の響きを大切に、家庭的な雰囲気づくりに取り組んでいる。夜、眠れない入居者が、職員と一緒に室内の洗濯物干しをするのは日常的。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	主に初期の協力依頼、毎月のお知らせ、イベントへのお誘い、面会時の報告と写真撮影など。コロナ以降は許可を得て手紙に写真 を掲載。好評を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの病院や歯科医の継続利用、墓参り、お見舞い、務めていた職場訪問、面会時の声かけと写真撮影、地域行事やイベントへの参加など、努力していたが、コロナ以降は避けている。	コロナ禍に伴い、家族や友人・知人との面会や馴染みの場所に行く機会は減っているが、家族の協力で電話で会話をしたり、写真入り年賀状を送るなど、つながりが途切れないような支援に努めている。利用者の要望で市外の病院への通院支援を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良いもの同士を中心に配慮。雰囲気良く、笑顔で過ごせる。18:00～20:00ごろまで、入居者同士が誘い合って、トランプをして過ごすことも。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居時は寄せ書きと千羽鶴を贈り、可能な限り見舞って様子を伺い、会議で報告し合う、撮りためた写真を印刷して贈るといった努力を継続して行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理に起こさない、入浴日や時間帯の変更対応、受診病院の希望受け入れなど努力している。症状進行し、危険や常識と折り合いがつかない場合も配慮している。結果、ベッドから落ちることも。	日々の会話や表情から思いや意向の把握に努め、起床時間や入浴支援の希望、受診病院の希望受け入れなど出来る限り配慮している。困難な場合は、言動から思いをくみ取り、職員間で検討し利用者本位の支援が出来るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	記録を取り寄せ、周知している。特に注意すべき点は連絡簿に記載する。施設での様子との差異についても、報告と話し合いを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	書類への記録と確認、朝夕の申し送り、連絡簿などを活用しており、全職員が現状を把握できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録と診察結果を基に、話し合いや会議の開催、家族への連絡と相談など、必要な手順を踏んでいる。最近はコロナのため変更申請の判断に迷うことが多い。	3ヵ月毎のサービス担当者会議において、支援記録や医師の意見を参考に、モニタリングを実施し介護計画の見直しを行っている。また利用者の状態変化に応じて随時、見直しが行われている。会議には看護師も参加している。コロナ禍のため家族の意見は電話で確認し反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要なだけの記録はつけているが、記録と介護の時間配分の問題あり。書く時間を減らして見守りに回したい。記入時間短縮を重視し、用紙の改善に継続して取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	送迎や受診希望、墓参りやおやつのリクエストなど、実行可能な要望には全て対応している。週2回歯科通院し、消毒が必要な入居者にも対応しているが、正直に言って大きな負担である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	詩吟の教室を慰問の先生に依頼したり、地域中学での認知症の授業で、中学生にできる支援を説明したりしていたが、コロナ以降、控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に協力いただきながら全ての要望に応じている。往診はもちろん、突発時の連絡に休日対応してくださるなど、医師には大変な配慮をしていただいている。	2名が入居前からの病院を受診し、14名が協力医を受診、2週間毎に協力医の訪問診療が行われている。他科受診は職員が対応している。週1回、看護師が訪問し職員と連携を図り健康管理が行われ、協力医の24時間対応体制が確保されており、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは、休日でも連携・対応を取れる態勢を保っている。さらに、全員が記録や報告を確認して職務についており、連絡簿などの活用で、緊密な相談と連携ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時のサマリーでの情報共有と、疑問を放置せず相手に確認するといった基本部分は、しっかりとできている。地域医療多職種連携の研修にも役職者が参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の話し合いでの確認に始まり、かかりつけ医からの予測と指示を受け、容態の変化ごとにじっくりと時間を掛けて家族の意向の確認を繰り返し行っている。	入居時、本人・家族と終末期ケアについて指針を基に話し合い確認している。容態の変化毎に家族の意向を確認し、医師・職員・家族が方針を共有し、安心した最期を迎えられるように取り組んでいる。ほとんどの家族が看取り支援を希望されており、研修を実施したり、経験豊かな職員の指導で看取り支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	円滑な対応のためのマニュアルを作成。また、施設にAED導入。不定期ながら専門家を招いた訓練も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練、協力体制、柔軟対応それぞれに、過去のレベルが維持できている。	今年度はコロナ禍により、利用者参加の避難訓練は実施出来なかったが、火災想定消防訓練、水害・地震想定避難訓練をマニュアルを基に机上で行った。食料・水などは室内に、投光器や発電機などの機材を室外の防災倉庫に保管している。今後、同一法人のデイサービスとの協力体制を検討している。	天候のよい時に利用者と職員が一緒に避難場所まで行き、避難場所や避難方法を確認し、気づいたことや課題を話し合い災害対策に反映されることを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地域性を重視した親しみと尊重の表現に配慮し、笑顔と優しい声の響きを大切に、人生の先輩として尊敬の念を持つようにしている。	年1回、人格の尊重やコンプライアンスなどの研修を行っている。理念にそって、笑顔と優しい声の響きを大切にした支援に努めている。不適切な言葉づかいや対応に気づいたら職員同士で注意し合っている。個人情報 は適切に管理されている。また、ファイルの氏名にさんや様を付け失礼のないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全職員が家庭的な雰囲気づくりを意識し、気軽に声をかけられる雰囲気づくりを実践している。要望にすばやく応じることで満足度を上げる努力を続けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床就寝時間、日中のリビングへの移動、入浴時間や順番の調整、余暇活動参加など、他入居者との調整が必要なものについてもできる限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は複数選択してもらえるよう配慮。髪染め、マニキュアや化粧を楽しむ機会も設けていたが、コロナ以降、他人に見せる機会自体が激減しており、着飾る機会も同様に減っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	席順や内容の要望などには全て対応。テーブル拭き、お盆拭きなどと共に、たこ焼きやかき氷などをみんなで作成する機会も作っている。今年は流しそうめんにも挑戦した。	食事は献立作成から調理まで専門の職員が行っており、利用者の好みや希望を反映させた「家庭の味」が提供されている。出来る範囲で利用者がテーブル拭きやお盆拭きを手伝っている。コロナ禍で外出が自粛されている中、かき氷やすいか割り大会、たこ焼きパーティ、流しそうめんなど利用者が食事を楽しめる支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録を基に支援を行っている。往診医は服薬での調整を中心に考え、不満が生じないよう気を付けている。また、刻んだうどんでき窒息する事件あり、食介に時間をかけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限り自立を促し、出来ない部分のみ支援することができている。あらたに往診可能な歯科医と協力契約を行った。不定期ながら要望多く、2名が頻繁に通院している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を基に、早めに声かけをして失敗を減らし、失敗しても責任を感じさせない対応を心掛けている。PWC設置、撤去、オムツ等の使用は本人の希望通りにしている。	排泄記録表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、早めの声かけや誘導により失敗を減らし、自尊心を傷つけない排泄支援を行っている。可能な限りトイレでの排泄が継続出来る支援に努めている。ポータブルトイレの設置やおむつなどの使用は利用者の希望を聞いて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	病状に応じ、運動、水分補給、献立の工夫などを継続して行っている。3日排便無しを目安に服薬を検討し、7日で体調を見て受診、を目安にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人との相談の上で曜日と順番を決める。さらに延期や拒否、シャワーのみの要望、入浴剤使用など、家族の要望に反しない限り、受け入れている。	入浴は週2回を基本に、曜日や順番は利用者の希望や都合に合わせて決めている。また、身体の状態に応じて一般浴・機械浴・シャワー浴を使用している。入浴剤や柚子湯を取り入れて入浴が楽しめるように工夫して、個々にそった入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の掃除、整頓、空気の入替え、汚れたシーツの随時交換、個々の好みの把握、見守り、眠れない方への飲み物や軽食の提供、おしゃべり相手といった、基本的かつ柔軟な支援ができています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	閲覧できる服薬一覧の作成、変化の観察、医師への相談、薬の変更の周知徹底、粉末への変更依頼などができている。服薬拒否のある場合も、種類によっては医師に確認の上、柔軟に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に状況を把握し、仕事の手伝いや、散歩、外出、絵画、書、切り絵、塗り絵、器具運動、カラオケなどの支援を実施。大勢参加するリレーなどの簡単なレクに大いに盛り上がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外泊、外食、買物、墓参、ドライブ、イベント参加など、支援、努力している。玄関前のベンチも日光浴に活用している。コロナ以降、感染状況を見ながら、人の少ない場所や時間帯を選ぶといった工夫をしている。	コロナ禍で外出の機会は少なくなっているが、天気の良い日には、近隣や敷地内の散歩、玄関先での外気浴、少人数で花見ドライブに出かけるなど、感染症対策に配慮し、出来るだけ戸外に出かけられる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されていない方がほとんど。少額を所持されている方から、お礼として金額の手渡しがあるが、全て記録し、ご家族にお返ししている。牛乳や新聞の配達依頼に応じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族同意があれば電話は自由に使用。今年には家族あてにそれぞれが写真を使った年賀状を作成、送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除、空気の入替え、花や観葉植物の飾りつけ、写真の貼り付け、作品の展示、室内音楽を流すなどを実施している。音、光、温度等は、状況に合わせて調整している。	日当たりが良く明るいリビングは、日中の団欒の場となっている。利用者と職員が季節に合わせた作品や壁飾りを作ったり、庭木や草花を見ながら四季を感じている。共用空間は小まめな清掃、室温管理、換気や加湿などを徹底し感染症対策に努めている。利用者が居心地よく快適に過ごせる環境づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆が集まり賑やかなTV前、日当たりのよいソファ、一人で過ごす居室内と、場所の特徴を入居者が理解している。寝る前に入居者が誘い合ってトランプをしたり、居室を訪ねて世間話する姿も。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、マット、布団の選択や使用感への配慮、馴染みの物の持ち込み、写真を飾る、貼る、心身状態に合わせてベッドや備品を揃える、マットを敷くなどの対応を迅速に実施している。	居室にはベッド・エアコン・整理棚などが設置されており、整理棚には使い慣れた生活用品が利用者が分かり易く整頓されている。また、思い出の品や写真が飾られ、その人らしく居心地良く過ごせるように工夫している。利用者の心身の状況を考慮したベッドやマットを使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	PWC設置と撤去、レクへの声かけ、お風呂待ちの席の作成など、可能な限り配慮をしている。刃物や針は個別判断し、使用時に見守っている。		